

AURA参加の報告

Association of Universities
for Research in Astronomy

秋山 正幸 (東北大)

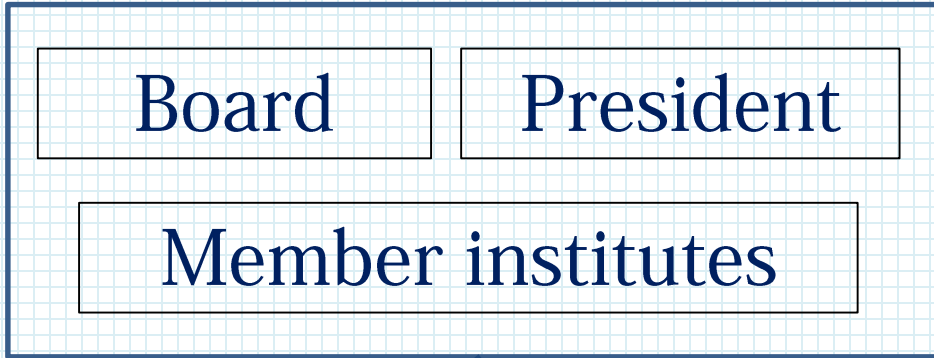
Membership

- 現在 47 の US の機関と 3 の海外の機関がメンバーとして参加 (東北大 2011-2019)。
- 機関としては 5 名程度のスタッフと毎年1名程度天文分野の博士号を出す規模を想定している。
- 各機関の member representative (+alternative) がアサインされており、member representative が年に 1 回開かれる Annual meeting に集まる。

Centers

- Gemini
 - LSST
 - NOAO
 - National Solar Observatory (DKIST)
 - STScI (HST / JWST)
-
- 光赤外関連の大型施設
 - 将来は US-ELT も。

AURA



~ 国立天文台 +
光赤天連

Election



Oversite



Governance

- AURA Board of Directors
- AURA Management Council for LSST
 - LSSTプロジェクトの監督
 - 所長、プロジェクトサイエンティストをボードに推薦。
 - プロジェクトのレビュー(人員含め)を行う。
- Solar Observatory Council
- NCOA Management Oversight Council
- Space Telescope Institute Council
- Nominating Committee

年会

- 各センターのハイライト報告とオープンハウス
 - 変わった例) どうやって議員にアピールするか？
- 各委員会の選挙
- 講演
 - 恒星や太陽など最近の研究成果
 - 変わった例) Decadal survey と連邦予算への反映
- 議論
 - 次世代大型計画についての議論。
 - decadal survey に向け何を具体的に提案するか。
 - 各機関での equity / diversity の推進に向けた取り組み。

コメント：光赤天連

- 議論がプロジェクトに集中しがちだが、幅広い議論を持つことは重要。
 - データ解析の新展開 (2010)
 - 望遠鏡時間の使い方(2011)
- 推薦投票の方法を見直してはどうか？
 - 運営委員会で候補者の選定をするなど。
 - 現状のやり方では投票率が伸びないのに加えて死に票が多い。

AURA council 選挙

- Nominating committee が要求される観点に基づいて候補者選定
 - プロジェクトの経験
 - 分野での経験
 - Diversity
- Member representative による投票。